

製品名: CD274 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08320**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:100-1:300, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CD274 B7H1 PDCD1L1 PDCD1LG1 PDL1
別名	Programmed cell death 1 ligand 1 (PD-L1) (PDCD1 ligand 1) (Programmed death ligand 1) (B7 homolog 1) (B7-H1) (CD antigen CD274)
遺伝子 ID	29126.0
SwissProt ID	Q9NZQ7
免疫原	アミノ酸配列範囲: 181-230 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

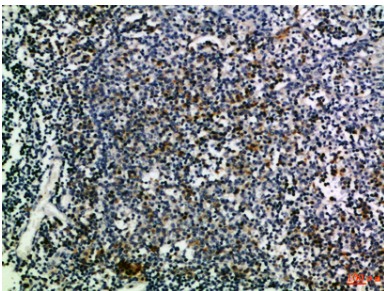
この遺伝子は、T細胞やB細胞などの造血細胞および非造血細胞、ならびに様々な腫瘍細胞によって発現される免疫抑制受容体リガン

ドをコードしている。コードされているタンパク質は、免疫グロブリンV様ドメインおよびC様ドメインを有するI型膜貫通タンパク質である。このリガンドとその受容体との相互作用により、T細胞の活性化およびサイトカイン産生が阻害される。正常組織の感染または炎症の際に、この相互作用は免疫応答の恒常性を維持することで自己免疫を予防するために重要である。腫瘍微小環境では、この相互作用により細胞傷害性T細胞が不活性化され、腫瘍細胞に免疫逃避の機会が提供される。腫瘍細胞におけるこの遺伝子の発現は、大腸癌や腎細胞癌など、多くの種類のヒト悪性腫瘍の予後因子と考えられている。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2015年9月]機能: IL2 依存のかつPDCD1 非依存的に、T細胞の増殖とIL10 およびIFNG 産生に不可欠な共刺激シグナルに関与する。PDCD1 との相互作用はT細胞の増殖およびサイトカイン産生を阻害する。誘導: LPS およびIFNG 活性化後、T細胞、B細胞、樹状細胞、ケラチノサイト、単球で発現が上昇する。表面Ig 架橋によって活性化されたB細胞でも発現が上昇する。類似性: 免疫グロブリンスーパーファミリーに属する。BTN/MOG ファミリー。類似性: Ig 様C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを1つ含む。類似性: Ig 様V 型 (免疫グロブリン様) ドメインを1つ含む。サブユニット: PDCD1 と相互作用する。組織特異性: 心臓、骨格筋、胎盤、肺で高発現。胸腺、脾臓、腎臓、肝臓で弱発現。活性化T細胞、B細胞、樹状細胞、ケラチノサイト、単球で発現。、

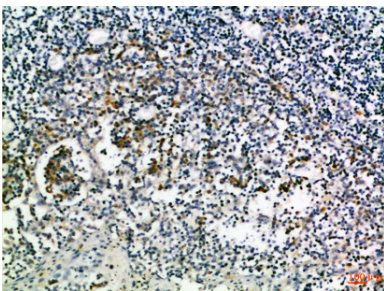
研究分野

細胞接着分子 (CAM)

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は1:100に希釈された



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は1:100に希釈された